

第2章

実施内容



1 事前研修

開校式、オリエンテーション、防災士養成講座（講義・演習）、グループワーク

■開催日：平成30年7月15日（日）・16日（月・祝）

■場 所：東京都庁大会議場（東京都新宿区）



スケジュール

15日(日)

- 8:30～ 普通救命講習受付
- 9:00～12:00 普通救命講習(未認定の希望者)
- 12:00～ 事前研修1日目 受付・開場



13:05～

開講式

- | | | |
|------------|------------------|-------|
| 東京都教育委員会挨拶 | 東京都教育庁 教育監 | 増淵 達夫 |
| 教員代表挨拶 | 都立農芸高等学校 全日制 副校長 | 東 達康 |
| 生徒代表決意表明 | 都立新宿山吹高等学校 第2学年 | 舟橋 篤志 |



13:16～

オリエンテーション

合同防災キャンプ2018 実行委員会事務局 挨拶

東京都教育庁 指導部 指導企画課長 石田 周

合同防災キャンプ2018 実行委員会事務局 説明

- | | |
|-----------|---------------|
| 宿泊研修案内 | 名鉄観光サービス株式会社 |
| 防災士資格取得説明 | 株式会社防災士研修センター |



14:20～

防災士養成講座(各講座60分)

- [1]「近年の自然災害に学ぶ」 特定非営利活動法人日本防災士機構 理事 甘中 繁雄氏
- [2]「津波のしくみと被害」 東北大学災害科学国際研究所 学術研究員 安倍 祥氏



16:30～

事務連絡

16:50

終了

16日(月)

9:00～ 事前研修2日目 受付・開場

9:30～

事務連絡

9:40～

グループワーク



10:00～

防災士養成講座(各講座60分)

- [3]「これからの防災教育 ～人を育む・未来をつくる～」
- [4]「避難所運営シミュレーション 守られる人からアクターへ！」
慶應義塾大学環境情報学部 准教授 大木 聖子氏
- [5]「被害想定とハザードマップ 震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ」
岩手大学大学院教育学研究科 准教授 森本 晋也氏

14:30～

グループ協議

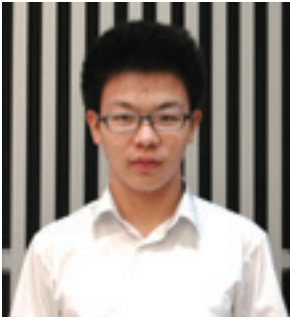
15:00～

事務連絡

15:20

終了

生徒代表決意表明及び教員代表挨拶



生徒代表
都立新宿山吹高等学校
2年 舟橋 篤志

近年、日本各地で自然災害が相次いで起こっています。6月の大阪府北部地震、昨年及び今月も起こっている西日本・九州地区での集中豪雨等多くの人々が被災され、大きな被害がでています。今月の豪雨では、何人もの尊い命が犠牲になり、今もお、救出作業が続いています。東日本大震災や熊本地震、今年に入って大阪府北部地震や豪雨による災害が起こる度にテレビで映像が放映されます。その映像を見る度に、今の被災地はどのような状態なのだろうか、私たちにできること、すべきことは何だろうかと考えていました。映像の中では、現地の高校生が、自分自身が被災しているにもかかわらず、様々なお手伝いをしている様子が多く見られました。

私は小学校3年生の時に東日本大震災を経験しました。当時東京は震度5弱及び強でしたが、友達と遊んでいた時に経験したことのない大きな揺れに襲われ、とても怖く、何もできませんでした。東京でも交通がまひし、大きな問題が起こったことを今でも覚えています。そして、その5年後、私は福岡に住んでいる時に熊本地震を経験しました。最初の大きな揺れから28時間経ってからまた大きな地震が起こり、更に余震にも襲われ、ゆっくり寝られない日が続きました。いつもどおりの生活ができなくなり、東日本大震災の経験を生かせませんでした。

そして、東日本大震災から7年、熊本地震から2年たった今、高校生になり、周りに支えられるのではなく、周りを支える人にならないといけないと強く思いました。2度の大きな地震を経験した私が、その経験を生かすためにも、合同防災キャンプに参加して様々なことを学びたいと考えました。

今回、87名の都立高校生が、東北の被災地訪問プログラムに参加し、現地の人々の生活や高校生の活動を知ることとなります。どのような状況であるのか、今はまだ想像しかできません。ですが、このような機会を頂けたことに感謝しながら、多くのことを学び、被災地の復興支援にできる限りの貢献をしたと考えています。

また、今回の合同防災キャンプでは、防災士養成講座を受講し防災士の資格取得を目指します。今後、私たちの住む地域で災害が起こった時、防災のリーダーとして地域の方々や高齢者を多く助けることができるよう、資格取得に向けて励みたいと思います。

私たちは、この合同防災キャンプを通して、体験したこと・学んだこと・感じたことを学校の仲間をはじめ、多くの人に伝えていきます。防災リーダーとして、東日本大震災を風化させず、災害に対する意識や心構えを多くの人々と共有できるよう、行動したいと思います。



教員代表
都立農芸高等学校
副校長 東 達康

まず始めに、今年の6月18日に、大阪府北部地方を震源とする最大震度6弱を記録する地震が発生しました。その地震では、現在までに4人が亡くなる被害が発生しています。

また、7月に活発な梅雨前線による西日本豪雨が河川の氾濫と土砂災害を引き起こし、甚大なる被害が中国・四国地方にもたらされ、166人の方が亡くなられ、安否不明者は56人以上に上り、今なお3万人を超える方々が避難所に身を寄せておられる状態であることは皆さんの記憶に新しいことと思います（人数は7月10日現在）。この場をお借りして、亡くなられた方々に心より哀悼の意を表し、お悔やみ申し上げます。

さて、昨年、私は東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓練に生徒とともに参加し、住民を主体とする避難訓練を体験しました。南海トラフを震源とする地震が発生した場合、東京都内から300km離れた八丈島には、津波及び八丈富士の噴火など甚大なる様々な被害のケースが想定されます。三宅島がそうだったように全島民が避難しなければならぬ最悪の事態も起こるかもしれません。

その訓練を通して切実に感じたことは、自分の命を自分で守るということの大切さであり、身近な人とともに助け合い、力を合わせて困難に立ち向かえば必ずや現状を変えられるであろうということでした。その時の思いが、合同防災キャンプに参加しようと思い立ったきっかけになりました。

私たちは、日本を取り巻く自然環境の変化を踏まえ、自分に今何ができるのか、今何をなすべきか、自分で考え、行動をとらなければなりません。

未曾有の災害を経験され、復興に向けて日々努力されている方々の生活現場に自ら出向き、現在の復興状況を確認する。また、話を聞き、思いを知ることにより、他人の苦労や想い、喜びや悲しみに共感し、寄り添うことができると信じています。

今ここに102名の崇高な理念と理想をもった高校生と教員が集いました。東京都の教員、生徒の代表として、今回選ばれなかった高校生の分まで、合同防災キャンプに参加して多くのことを学んでくることをここに誓います。

そして、我々の一人一人が防災に関する正しい知識を学び、実践すべき技術を身に付け、学校や地域社会の中で防災活動のリーダーとしての役割を担い、継承していく防災士になりたいと考えています。